



### 文相へ報告しない

理事長 水野東太郎

①理事長水野東太郎は、文相へ報告しないという以上、文部大臣報告を拒否してはならない。学生は同調せざるを得ない。

②一部の一本化自体は悪いとはいえない。バラバラだと交渉も困難な状態ではあるが、どこまでも交渉の余地もある。

③いつまでも成り行きをまかせておくことはできない。今月は夏休み中なので、具体的に何をやるかを考えていない。

④改革委員会は近代化路線の延長上にあり、それは中教審審議の具体化にほかならない。

⑤六項目要求の要件は認めるところであり、その体制をゆるがす強力は勢力にはなっていないことは反省しなくてはならない。しかし、これからの運動は固い込みでなく、大衆討論を根拠とする第一歩に踏み出すべきであり、これを警戒しない。

⑥改革委員会の白紙撤回を求め、これまでの自己批判を踏まえて答えを明らかにするよう運動する。さらにロマンマツを絶賛する。また、大衆討論の回を



あへても全共闘が主体である。改革委員会の白紙撤回を求め、これまでの自己批判を踏まえて答えを明らかにするよう運動する。さらにロマンマツを絶賛する。また、大衆討論の回を

### 教授・助手との連帯

全共闘 横谷 優一

あへても全共闘が主体である。改革委員会の白紙撤回を求め、これまでの自己批判を踏まえて答えを明らかにするよう運動する。さらにロマンマツを絶賛する。また、大衆討論の回を

が、十月に入ってもこのままの形で展開するとはできない。学生の方から話し合いたい意向があればいい。もどかしい。こちらからも積極的に野戦軍を出すべきではない。

④現段階で学長が報告をしないという以上、文部大臣報告を拒否してはならない。学生は同調せざるを得ない。

⑤全共闘が目下の交渉相手かも知れないが、これからは、一般学生への情

富活動が肝心と思っている。さらには教職員、父兄、校友に紛争解決の協力を求めたいと思っている。私としては一日も早く、この非常事態を解決し、正常化したい。それにはまず学生が主体的に自主的にバリケードを解くことが一番抵抗のない方法だが、これが困難である以上、各方面の協力をあおぎたい。(井藤士)

をもつてであり、十月一日前に会ってもよいと考

⑥諸階層による階級分化の総反乱、近代化路線粉砕を通

⑦十六日に教員、職員、助手、院生、全共闘による討論

集会を決定し、各層の意見の掘り起こし作業を続けるなかで問題点を再確認し、合同した闘いを組織

体を作り上げていきたい。それは一回だけでなく何回でも開き、今日中にも不毛の闘い込みでなく、大衆討論を根拠とする共同の結成を許すものである。さすするなかですべての学生を巻きこめる運動体が自然と出来

## バリストの経過と展望

- ①大学改革準備委員会について。
- ②全明全共闘の結成について。
- ③今後同交など話し合う場を設定し交渉する考えはあるか。
- ④大学立法施行について（報告の義務）・全国全共闘運動について。
- ⑤今後の方針と展望。

アーン



### 永続闘争宣言

二部共闘 本間 晟豪

①改革委員会は大学立法を具体化する権利に過ぎない。大学の一部手直しであり、「中教審大学」の存続を保障するものである。しかもわれわれに対する暴力的脅威であり、機動隊導入への確口と見

②現在のことろ考えはない。われわれのバリケードは、権力の強圧にむけて築かれたもので、大学層との同

③現段階ではまだとて言うことではないが、できるだけ早急に中間報告を出してもらい、それをたたき合っていく

④同交の申し入れがあるれば原則的には応じた

⑤決定した。



①大学改革準備委員会について、わたしたちが基本的には反対である。報告義務は設置者である理事長の責任と見做すが、わたしが激言を求められ、好ましくありません。

### 学内世論を尊重する

学長 中川 富弥

理の力に頼ることは、愚識をもつて行動してもらいた

④全明全共闘がもつべき連理としては、階級闘争における機動的に闘う学生の統一戦線とすべきである。将来的には、七〇年をさぐく政治闘争であり、今日的には、大学立法の発動に対する粉砕闘争であり、これを軸としての個別大学闘争に対する支援闘争を組織するのである。

⑤バリケードの死守を本来的確認のもとで、層大公約教として巨

⑥従来とは異質の大学闘争、即ち東大闘争からかちどく。先知恵をふまえての、大衆意識の完全な分析をめざす。ブルジョア体制否定の闘争である。大学立法施行などの予防的暴力に対して、「永続闘争宣言」を発表する。ともあれ徹底抗戦で戦い抜く覚悟だ。(学苑会事務局長・二文四年)

死にたい方がいと思う。本部の催す会議、アンケートに対しては一切拒否する姿勢を貫いていきたい。

⑦大多数の学生はまだ、求めていると思われ、よく現状を理解してはいるため、郵送で状況報告を行いたいと考えている。今後は状況にむかって、学内世論を尊重し、全共闘、中教審と学生の組織を無視せず民主的ル

トに基づいて学長としての責任をもちたい。授業再開は多くの学生が望んでいてほしい。授業再開は多くの学生が望んでいてほしいが、物理的に難しい。授業再開は多くの学生が望んでいてほしいが、物理的に難しい。

⑧決定した。

政経学部教授